

わが市わが町「鎌倉市」

我が鎌倉市の歴史と都市構造を語るうえで、緑豊かな森林の存在は欠かせません。

三方を山に囲まれた要害の地において、12世紀末に源頼朝が初めての武家政権を発足させてから現在に至るまで、天然の城郭都市「鎌倉」の基本的な都市構造は変わっていません。鎌倉時代の最盛期には、中国との交易や仏教の隆盛と相俟って新たな文化が花開き、また明治・大正期には鉄道の開通とともに保養地として脚光を浴び、今も市内各地に残る社寺や近代建築は周囲の森林と一体となって鎌倉らしい風土を醸し出しています。



鎌倉における森林の地形的特徴として、砂岩系の脆い岩盤に薄い表土が堆積した丘陵と市街地との間にそびえる急峻な斜面があります。そこに河川等による浸食で形成された大小様々な「谷戸」と呼ばれる地形が形成され、その奥深くにまで人々が居を構えて暮らしています。また、生態的特徴としては、高度経済成長期以前の里山的な利用により萌芽更新

された樹木の大径化が散見される二次林や、戦中戦後の木材需要に応えるため植林された杉などの人工林のほか、竹林等が斑状に混在しています。

このように緑豊かな鎌倉も、高度経済成長期には急激に都市化が進み、昭和20年代に市域の約六割を占めていた森林も、今や約3分の1にまで減ってしまいました。このため昭和40年代以降、歴史的風土保存区域や近郊緑地保全区域の指定など、国や神奈川県による緑地保全の取り組みが進められているほか、本市としても全国に先駆けて平成8年に「鎌倉市緑の基本計画」を策定するなど、まちづくりの骨格をなしている主要な森林の保全に努めていますが、未だ道半ばといったところ です。



また、森林の管理状況に目を転じますと、現在、市内に生業として林業に従事している方はなく、エネルギー資源や生活様式の転換から里山的な利用がされなくなって久しいことに加えて、近年の異常気象の懸念もあり、森林に近接した住宅地などでは常に自然災害の危険に晒されているところがあります。人と自然とが最も望ましい形で共存するためにも、森林の適正管理が強く求められています。

一方、代々森林を所有されてきた方々にとって、今や利用価値の薄らいだ森林を、災害のリスクも認識しつつ所有・管理し続けることへの大きな負担も課題となっています。とは言え、森林所有者のご理解とご協力なくして、鎌倉らしさを支える自然的環境を未来へ引き継いでいくことはできません。



これらの諸課題に対応するため、本市では国・県とも手を携えながら様々な施策の展開を図っています。しかしながら、昨今の地域主権改革の流れもあり、ますます基礎自治体の役割が拡大する中、限られた財源での対応に大変苦慮しています。このことについては、更なる創意工夫や国・県・市の適切な役割分担に基づく取り組みが必要です。特に広域的に必要性が高いと位置付けられている森林については、地球規模での課題ともなっている生物多様性保全や地球温暖化対策にも寄与することから、国および神奈川県に対して、積極的な事業の推進と基礎自治体への支援を働きかけていきたいと考えています。

鎌倉市

まちづくり景観部みどり課

